

## 編集後記

『専修人間科学論集社会学篇』発行は、今年で4年目になります。人間科学部が発足して完成年度の年に、学内外の先生方や院生の皆さんの玉稿が多く寄せられ、充実した論集を刊行できたことを、誠に嬉しく思っております。

これも、前編集主幹の大矢根淳先生が御苦労されて、この論集の土台を作られたお陰であり、その御苦労に対し、この場を借りて深謝申し上げます。

ところで、今年の論集の特徴は、その論文テーマが多様であり、多彩な論文が多く集まり、掲載されたことにあると言えます。

また、嶋根克己先生との共同執筆とは言え、ハレ大学大学院生のインカ・ルードヴィヒさんの研究ノートがこの論集に掲載されていることも今年の特徴であります。インカさんは、5年前に交換留学生として嶋根先生のゼミに在籍していました。本論集の国際化が進むことは歓迎すべきことであり、留学生の若手研究者が今後本論集に論文を投稿されることを期待しています。

昨年と比べて、今年の論集のもうひとつの特徴は、学外の兼任講師の先生方や本学名誉教授の柴田弘捷先生が積極的にこの論集に投稿原稿をお寄せになったことにあります。昨年の3名に比べますと、その倍以上の7名もの先生の論文が集まり、その比率はこの論集のほぼ半数となります。

これまで、専修大学文学部人文学科社会学専攻生から徴収した資金により発行されていた『専修社会学』が、

社会学専攻が人間科学部社会学科に改組となるに伴い、その資金が無くなったため、『専修社会学』は紙媒体での発行をやめ、オンライン上だけの掲載となります。その関係で、今年から本論集に、専修大学人間科学部社会学科の卒業論文題目一覧と専修大学文学研究科社会学専攻の修士論文題目一覧を掲載することになりました。これも、今年の論集の特徴です。

今年の『専修人間科学論集社会学篇』の歩みを振り返りますと、先ず最初、5月に今年の『専修人間科学論集社会学篇』の発行の方式を社会学科の会議で検討し、昨年と同様の方式にすることが決定され、それを受けて、投稿締め切り日が11月後半であることから、昨年より2か月前倒しで、7月後半から投稿希望を募り、9月後半に投稿の書式や投稿規則と共に投稿カードを投稿希望者にお送りしました。昨年度は、学内と学外で投稿希望を募る時期が違っていたため、原稿収集の時期がずれ、収集の時期や校正の時期が複雑になっていたため、今年はその時期を同じ7月後半としました。

原稿の収集は、昨年の例に倣い、締め切り日の近辺で、投稿予定者に締め切り日をお知らせし、その周知徹底に努めました。編集の段階では、もう一人の編集委員である永野由紀子先生からもいろいろと御協力と御助言を頂きました。

編集の実務を担当された海老原実様にも、その場その場で的確な御助言と御協力を頂きました。初めての編集主幹でしたが、お二人のお陰で無事発行に漕ぎ着けることができました。この場を借りてお二人に厚くお礼申し上げます。

(社会学篇編集主幹 川上周三)